

信じること

2023.11.26

11月10日（金）に、「福島市総合文化祭音楽発表会」が、音楽堂で開催された。市内の各中学校の代表が、その歌声を披露する場である。多くの学校では、合唱コンクールを行い、最優秀賞に輝いた学級が参加している。いわば学校の代表である。

野田中学校はというと、3年4組が代表として参加することになった。3年目の若いSS先生のクラスである。このクラスの保護者に、この「校長室だより～燦燦～」の読者がいる。何度か登場していただいている方である。

その方から、ある画像を見せていただいた。黄色い星形の折り紙に「信じること」と書かれてある。聞くと、こういうことだった。校内合唱コンクールの当日の朝に、担任であるSS先生が、クラスの全員の生徒に渡したものだ。生徒は、それを胸ポケットに入れて、ステージの上に立った。こんなドラマがあったとは。SS先生は、アパートで夜な夜な折り紙をしていたことになる。どんな思いで、折っていたのだろうか。「信じること」という文字に何を託したのだろうか。

本人に聞いてみた。どうして、このようなことをしたのか。コンクールの前々日に、違うクラスの先生が同じようなことをやっていることを知ったそうである。それで、自分もやってみるかと考えたとのことだった。SS先生は、控えめで謙虚な人なので、このような説明だったが、きっと何かしたいとは思っていたはずである。初めての3年生担任である。思いがあったはずである。そこに、先輩教員の取組の情報が入った。さすがは、SS先生の教育係である。

私は、よく、合唱コンクールにはドラマがあると知っている。本当にあった。やっぱりあった。SS先生には、こう言った。「生徒は、ずっと忘れないよ」そういうものである。SS先生は、「本当ですか」と反応していたが、5年後にでも、生徒たちと再会したときに、本当だとわかるだろう。

SS先生の3年4組は、幸運にも1番目の発表となった。とはいえ、大丈夫だろうかという心配はあった。演奏が始まった。出だしの声が会場中に響きわたった。声が出ている。響いている。聞いているうちに、だんだんと涙が浮かんできた。きっと、SS先生も泣いていたことだろう。無事に演奏が終わった。SS先生のもとに行った。まず握手をした。「よかったな。響いていたな。あなたは、幸せ者だ。子どもたちに感謝しなさいよ」

3年4組が披露した歌には、「信じること」というフレーズが何回も出てくる。SS先生は、これを折り紙に30人分書いたわけである。よくよく計算してみると、SS先生は、一晩で30人分の星形の折り紙を用意し、「信じること」を30回書いたことになる。彼にとっても、忘れられない思い出となることだろう。